



## 特別展

やまぐちけんりつはぎびじゅつかん・うらがみきねんかんめいひんでん

山口県立萩美術館・浦上記念館名品展

# やきものが好き、浮世絵も好き

Ceramics and *Ukiyo-e* Masterpieces from the Hagi Uragami Museum

2013年6月1日[土]～7月15日[月・祝]

[休館日] 月曜日 ただし7月15日(月・祝)は開館



せいかにぶどうりすもんつぼ

青花葡萄栗鼠文壺 ※

朝鮮・朝鮮時代 19世紀

山口県立萩美術館・浦上記念館蔵



なにわや

難波屋おきた (部分)

江戸時代 寛政5年(1793)

山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

きたがわうたまろ

喜多川歌麿

根津美術館では、6月1日(土)から7月15日(月・祝)までを会期として、特別展「山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き」を開催いたします。

山口県立萩美術館・浦上記念館は、萩市出身の実業家で美術品コレクターである浦上敏朗氏が、中国・朝鮮の陶磁と浮世絵版画あわせて約2500点を山口県に寄贈したことをきっかけとして平成8年(1996)に開館した美術館です。以来同館では、やきものと浮世絵を柱とする魅力的なコレクションを、寄贈や購入によってさらに豊かなものとしてきました。

その特徴は、一人のコレクターの慈しみに満ちた眼差しが選び取った作品の妙といえます。陶磁器は、力強さにあふれた先史時代の土器にはじまり、愛らしい小ぶりの唐三彩、飄逸な図柄の古染付、静謐さをたたえた高麗青磁、のんびりした姿の朝鮮の染付などが、絶妙に取り合わされています。一方、浮世絵は、錦絵創始期の鈴木春信をはじめ、喜多川歌麿の美人画、東洲斎写楽の役者絵、葛飾北斎の「富嶽三十六景」、歌川広重の「東海道五十三次之内」、さらに最近人気の歌川国芳など、誰もが知っている代表的浮世絵師の名品揃いです。

本展覧会は、このような山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵品の中から、東洋陶磁130点と浮世絵62点、計192点を特に厳選し、開催するものです。同館のコレクションを東京で今回ほどの規模で展覧するのは、これが初めてです。さらに当館にとりましても、本展は浮世絵版画を展示する初めての機会となります。

※ 柔らかくふくらんだ丸い壺の胴を、葡萄の葉と蔓が大きく横切り、その蔓に小さな栗鼠が乗っている。淡い青料で描かれた文様は、青味のある釉の下で白磁に映え、整った形と併せ朝鮮時代後期の優品と言える。

## 展示室 5 浮世絵

浮世絵は前期（6月1日～6月23日）と後期（6月25日～7月15日）ですべての作品を展示替えします。

### [前期展示]



なにわや きたがわりたまろ  
 難波屋おきた 喜多川歌麿  
 江戸時代 寛政5年（1793）  
 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

情感あふれる美人画の様式を確立した歌麿の作品。

おきたは浅草の水茶屋・難波屋の評判娘で、その美貌を見たさに、店はいつも年末の歳の市のように混み合ったという。

### [後期展示]



とうかいどうごじゅうさんつぎのうち しょうの はくう うたがわひろしげ  
 東海道五十三次之内 庄野 白雨 歌川広重  
 江戸時代 天保4～5年（1833-1834）  
 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

広重の出世作となったシリーズ中の一枚。白雨とは、にわか雨のこと。左上へのびる坂道と右からの雨、風でしなる竹林、人の走る姿など、動きのある構成が見所である。

### [前期展示]



ふがくさんじゅうろっけい がいはうかいせい かつしかほくさい  
 富嶽三十六景 凱風快晴 葛飾北斎  
 江戸時代 天保2～5年（1831-1834）  
 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

曙光に赤く染まる富士山。誇張された険しい稜線が名峰の姿を劇的に表現する。俗に「赤富士」と称され、同じシリーズ中、「神奈川冲浪裏」などと並ぶ名品である。

### [後期展示]



さんだいめいちかわこまぞう しがだいしち とうしゅうさいしやく  
 三代目市川高麗蔵の志賀大七 東洲斎写楽  
 江戸時代 寛政6年（1794）  
 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

作画期わずか10ヶ月の写楽による役者大首絵は、容貌の大胆なデフォルメを特徴とする。黒に支配された画面に静けさと緊張感が漂う作品である。

展示室 1・2 中国・朝鮮陶磁



らんさんさいゆうがいまんねんこ  
**藍三彩有蓋万年壺**  
 中国・唐時代 8世紀  
 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

胴が丸く張った壺に宝珠形の鈕を付した蓋が添う。白釉に藍釉、緑釉、褐釉が重ねて施された繊細な意匠が特徴である。これは西方の絨毯などの染織文様に依ったものと考えられ、どこか異国情緒を感じさせる。

せいかげつともんりすみかくへんこ  
**青花月兎文栗鼠耳角扁壺**  
 朝鮮・朝鮮時代 18-19世紀  
 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

リナ  
 側面に栗鼠形の耳が付き、正面には円窓のなかに餅をつく兎を描く。これは月には兎が住むという中国の伝説によったものと考えられる。



ふんせいさきかきおとしぼたんもんへんこ  
**粉青沙器搔落牡丹文扁壺**  
 朝鮮・朝鮮時代 15-16世紀  
 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵

丸い壺でない、二面を平らにした扁壺は朝鮮で好まれた形。器面に塗った白土を牡丹花と大きな葉をのこして搔き落として文様にしている。素地の青灰色に牡丹花がふわりと浮かび豪華な雰囲気をかもしだしている。総体に淡い青釉がかかる。

**[関連イベント]**

**■講演会1 「浦上さんの蒐集めた珠玉の浮世絵」**  
 日時 6月22日（土） 午後2時～3時30分  
 講師 佐藤光信氏（平木浮世絵美術館 館長）

**■講演会2 「息子が語る父のコレクション」**  
 日時 6月29日（土） 午後2時～3時30分  
 講師 浦上満氏（浦上蒼穹堂 店主）  
 \*会場はいずれも根津美術館 講堂

<お申込み方法>

往復はがきに参加を希望される講演会（「講演会1」または「講演会2」）と、住所、氏名（返信面にも）、電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「やきものが好き、浮世絵も好き」展係にお申込みください。「講演会1」は2013年6月8日（土）、「講演会2」は6月15日（土）締切（当日消印有効）。参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

**■ギャラリートーク**

日時 6月 7日（金）展示室5 浮世絵（前期）  
 6月14日（金）展示室1・2 中国・朝鮮陶磁  
 7月 5日（金）展示室5 浮世絵（後期）  
 ※いずれも午後1時30分より約45分間イヤホンガイドを使って行います。  
 ※当日先着30名様に限らせていただきます。  
 ※午後1時よりホールにて整理券を配布します。

◆講演会、ギャラリートークともに参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

**山口県立萩美術館・浦上記念館**  
 平成8年に開館した県立2館目の美術館で、浮世絵、東洋陶磁、現代陶芸を専門とする。設計は丹下健三・都市・建築設計研究所。ミシュラン・グリーンガイドに2つ星で紹介されている。

かぜまちづき  
展示室6 同時開催 <テーマ展示> 「風待月の茶」

かぜまちづき

風待月と呼ばれる旧暦6月は、暑さの中で涼風を待つ季節です。籠の花生や、底の浅い涼しげな茶碗、白地に藍色が爽やかな染付の水指など、約20点を取り合せます。



くろおりべくつちやわん  
黒織部沓茶碗  
美濃 日本・桃山～江戸時代  
16-17世紀 根津美術館蔵

不規則な楕円形にゆがめられた茶碗を沓茶碗と称している。この作品は、正面の白地に枡形や菱文を黒釉で描き、背面は黒一色である。黒織部沓茶碗には、このような幾何学文が多い。

こそめつけぶどうだのみずさし  
古染付葡萄棚水指

景德鎮窯 中国・明時代 17世紀 根津美術館蔵

下部が膨らんだ丸い胴を八角に面取りし、同じく八角形の蓋がつく。全体に、葡萄棚の図が自由な筆使いで描かれており、日本の茶人が中国に注文した作品と考えられている。



てつきごはないけ  
手付籠花生  
竹 中国・明時代 16-17世紀 根津美術館蔵

底を四方に組み、口縁を丸く編み上げた籠の花生。緻密に作られており、正面の小枝を束ねたような文様を景色としている。取っ手は取り外しできる。



### 【開催概要】

- 【展覧会名】 特別展 「山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き」
- 【主催】 根津美術館
- 【協力】 山口県立萩美術館・浦上記念館
- 【開館期間】 2013年6月1日（土）～7月15日（月・祝）  
\*浮世絵は会期中、前期（6/1～6/23）と後期（6/25～7/15）で、すべての作品を展示替えます。
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 月曜日 ただし7月15日（月・祝）は開館
- 【入館料】 一般1200円（1000円） 学生1000円（800円）\*（ ）内は20名以上の団体料金 中学生以下は無料
- 【前売券】 一般1100円 学生900円  
\*2013年4月20日（土）～5月19日（日）「国宝 燕子花図屏風」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線（表参道）駅下車  
A5出口（階段）より徒歩8分、B4出口（階段とエスカレータ）より徒歩10分、  
B3出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問い合わせ】 TEL 03-3400-2536（代表）
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp>（日本語・English）
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp>（日本語・English）  
\*携帯サイトは、機種により閲覧できない画面があります。
- 【専用アプリ】 「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

### －次回展のご案内－

コレクション展

## 曼荼羅展－宇宙は神仏で充滿する！

2013年7月27日[土]～9月1日[日]

密教儀礼の本尊、浄土の様相、そして聖地の景観まで、  
曼荼羅の優品を一堂に展示します。



重要文化財 金剛界八十一尊曼荼羅（部分）  
鎌倉時代 13世紀 根津美術館蔵

<リリース・広報のお問い合わせ>

根津美術館 広報 担当： 所、村岡、羽田

TEL : 03-3400-2538(直) FAX : 03-3400-2436 E-mail : [press@nezu-muse.or.jp](mailto:press@nezu-muse.or.jp)